

日本の天気はどうなってしまったのか？

【本書の内容】

豪雪が交通を分断し、竜巻が車を吹き飛ばす。夏は熱帯のような酷暑となり、台風が迷走、河川が氾濫し家々を押し流す。日本列島はここ数年、「これまで経験したことのない災害」に見舞われている。気象庁が「命にかかわる非常事態」と表現する激甚気象はなぜ起こるのか？ 気象学の第一人者が最新の研究成果をもとに解き明かす。

【目次より】

繰り返される災いの年／なぜ日本は激甚気象が多いのか／高気圧はなぜ猛暑をもたらすのか／水蒸気をもたらす大気的不安定／豪雨はなぜ発生するのか／台風／激甚気象は予測できるか／地球温暖化と気象災害／激甚気象から命を守るために



【著者プロフィール】坪木和久 Kazuhisa Tsuboki

1962年兵庫県生まれ。気象学者。名古屋大学宇宙地球環境研究所教授。北海道大学理学部卒。北海道大学理学研究科、日本学術振興会特別研究員（北海道大学低温科学研究所）、東京大学海洋研究所助手、名古屋大学大気水圏科学研究所助教授、名古屋大学地球水循環研究センター助教授、准教授、同センター教授を経て現在にいたる。2017年、日本人として初めて、航空機によるスーパー台風の直接観測に成功した。

【書籍データ】

坪木和久『激甚気象はなぜ起こる』（新潮選書）

【配本・発売日】 5月25日配本／5月27日発売

【造本】 四六判

【ページ数】 400ページ

【定価】 1600円（本体価格）